

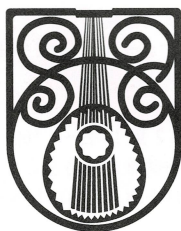
オルケストラ シンフォニカ 東京

第 63 回

定期演奏会

2023 年 4 月 9 日（日）午後 2 : 00 開演

第一生命ホール



OSTについて

OSTの活動は大きく3つの時代に分けられます。

第1の時代は1915(大正4)年に武井守成^{*1}がシンフォニア・マンドリニ・オルケストラ(1923(大正12)年オルケストラ・シンフォニカ・タケキと改称)として楽団を創設したことに始まり、多くのマンドリン曲を紹介し、合奏コンクールや作曲コンクールを実施するなど斯界をリードしました。1949(昭和24)年武井氏逝去により活動は次第に終息していき、1958(昭和33)年に解散となりました。この間57回の演奏会が開催されました。

第2の時代は武井氏ご遺族より貴重な武井文庫の蔵譜と楽器を譲り受けた杉田村雄^{*2}が理事長として1959(昭和34)年にオルケストラ・シンフォニカ・タケキを復興し、始めました。杉田氏が支配人を務めていた日比谷皇居前の第一生命ホールを会場に毎年の演奏会を重ね、またその場ではギターの優秀な作品に贈られる武井賞の受賞作品も演奏されました。1986(昭61)年の杉田氏逝去に伴い、翌1987年開催の追悼の意を込めた演奏会(定期28回目)で幕を閉じます。

第3の時代は残された団員の合議により幹事制の下で民主的に運営することが決められ始めます。その際に杉田氏ご遺族よりマンドローネ・リュート・セロなどの楽器と杉田氏が収集した楽譜を団として譲り受けました。武井文庫は、当時日本マンドリン連盟理事長でOST団員でもあった市毛氏のご尽力で国立音楽大学図書館に寄贈されました。また、武井氏ご遺族より楽団名「OSTタケキ」の改称のご要望があり、それに従い「OST東京」と改称して、1988(昭和63)年の定期演奏会(第29回)を開催しました。これが現在へとつながります。

本日は杉田氏が復興した演奏会より63回目となります。毎回定演後の最初の活動日に総会が開かれ、すべての事項を決定します。任期2年の幹事団が代表幹事を中心に通常の運営を担当します。指揮者は現在会員の互選によって選ばれています。練習日は杉田氏の時代より毎月第2日曜で固定していて、新加入に関しては団員の了解の下で随時受け入れています。

*1) 武井守成(たけい もりしげ: 1890年10月11日～1949年12月14日)

枢密顧問官武井守正の二男として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部官長、男爵。

マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケキ』(OST)を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923年にマンドリン合奏コンクール、1924年に作曲コンクール、1927年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催してマンドリン・ギター音楽の発展に尽力した。

*2) 杉田村雄(すぎた むらお: 1903年2月14日～1986年7月17日)

八王子・南多摩郡多摩村の村医杉田武雄の長男として生まれる。

暁星中学時代、クラスメートの斉藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。

1939年OSTに入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方への疎開に尽力し、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。

武井氏逝去後、OSTの再興にあたり理事長および指揮者を務める。武井氏の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、日本マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。



曲 目 解 説



第 一 部

「コッペリア」より「前奏曲とマズルカ」 「チャルダッシュ」

C. P. L. ドリーブ

クレマン・フィリベール・レオ・ドリーブ（1836年～1891年）はバレエ音楽や歌劇の作曲で知られているフランスの作曲家です。OSTでは昨年「コッペリア」の「ワルツ」を演奏しましたが、今回も引き続き作品を取り上げました。中低音部パートの幻想的な響きで前奏曲が始まりマズルカの特徴あるリズムへと曲が続いていきます。チャルダッシュはハンガリーの踊り。緩やかに始まる曲も後半は速度を上げ壮大に終わります。

「2つの北歐的旋律」より「第2曲 牛呼び 農民の踊り」

E. H. グリーグ

ノルウェーの作曲家エドヴァルド・ハーゲルupp・グリーグ（1843年～1907年）は北歐のメロディーを元にした組曲を多く残しています。この「2つの北歐的旋律」はピアノ曲集「25のノルウェーの民謡と舞曲」からオーケストラのために書き直された曲。「牛呼び」は広い草原の中でのんびり過ごしている牛たちを呼び集める情景を、「農民の踊り」は農民たちの結婚の祝いの風景を思い起こさせる曲想です。

オラトリオ「聖母」より「聖母の最後の眠り」

J. E. F. マスネ

ジュール・エミール・フレデリック・マスネ（1842年～1912年）はフランスのオペラの作曲家として「マノン」や「タイス」など多くの曲を作曲しています。このオラトリオ「聖母」ではマリアの受胎告知から昇天までの物語を曲にしましたが、初演時の評判が悪かったようで忘れ去られてしまいました。その中でこの「聖母の最後の眠り」だけが唯一初演時から評判が良く、現在まで残っています。マリアが地上で眠り天国で再び目覚める。静かに天へ昇っていく情景が見えるような美しい旋律です。

（文責 嶋）

第二部

落葉の精

武井守成

武井守成（1890年～1949年）が、1927年（昭和2年）に作品番号27番のギター独奏曲として作曲しました。翌年作者自身によりアンサンブル曲に編曲されました。題名は作曲後、OST会員より募集し当選したものがつけられているとのことですが、1958年（昭和33年）頃に日本コロムビアから発売されたレコードの解説には「秋も終りに近づき樹々の葉が紅葉して、はらはらと落ちる様に靈感を得て書かれた」となっており、経緯については興味深いところです。（OST第54回演奏会プログラムより）

虫の踊り

武井守成

武井守成が、1927年（昭和2年）に作品番号25番のギター独奏曲として作曲しました。長く演奏されませんでした。1943年（昭和18年）に作者自身によりラジオ放送のためにアンサンブル曲に編曲されました。虫の踊りの様子を表現しているとのことですが、いったいどんな虫でしょうか。

流れ

武井守成

武井守成が、1931年（昭和6年）にマンドリンオーケストラ用に作曲しました。「単なる流れの描写ではない」と作者は注釈していますが、静けさ、荒々しさ、みずみずしさを取り混ぜた流れのイメージがみなさまにはどのように聞こえてくるでしょう。タケイ時代も含めた現在までの約120回のOST演奏会では演奏回数が少なく、初演の1931年、1967年、1996年の3回のみで、ほぼ30年間隔で演奏されています。それに今回の4回目は27年ぶりとやはりほぼ30年間隔となりました。

幻想曲 朝鮮の印象

武井守成

1926年（大正15年）に武井守成が公務で訪れた彼の地の印象をもとに作曲初演されました。タイトルにはカラーチェ氏に贈るとあり、来日中のR. カラーチェ氏に捧げられたようです。作者によると、「印象の骨子は、ソウルの夜宴、ピョンヤンの牡丹台の寒月、当時の軍国的情調、妓生の舞踊などである」とあります。用いられる打楽器は、この時に作者が彼の地より持ち帰った東洋風ドラや木魚が指定されています。100年近く経った今もOSTに伝わるその打楽器を本日は使用いたしません。

狂詩曲 海

鈴木静一

邦人マンドリン作曲家として、頻繁に演奏される多くの作品を残した鈴木静一(1901年～1980年)が、1927年に作曲し1970年に改作した作品です。鈴木がスコアに書き残した文章です。「知らぬ間に交代するひき潮の静かさには衰退(おとろえ)を感じる キラキラと美しく輝きながら だが海はその中で巻き返しをたくらむ! ひき潮は引きしぼられ弓ずる 矢はやがて切ってはなたれる! あげ潮 磯を打ち砂浜を嘯む浪! 浪! この時海は澁刺とはち切れるばかり活気に充ちる! そしてその極限に来る満潮ののどかさ、おだやかさ この狂詩曲は平穩の日の海の一日のくり返しを描いてゆく」

(文責 石井)

第三部

星座 (Konstellationen)

M. ヴェングラー

1979年のシュワインフルト(ドイツ)における世界的規模で公募されたマンドリンオーケストラのための作曲コンクールで優勝作品となった現代曲です。従来のマンドリンオリジナル曲の概念を超え、新しい可能性を積極的に目指し、新鮮な響きをたたえています。

作曲者のマルツェル・ヴェングラーは1946年生まれで、ブリュッセルのコンセルバトワール王立音楽院に学び、作曲科の和声・対位法・フーガの三つでトップの成績をとったほか、マルチン ルゼンス賞、レオン ドラクロア賞、ゲルベルト賞など数多くの賞を獲得しました。作曲以外にも1974年以来ザールランドマンドリンオーケストラの指揮者を務め、1978年にはリオデジャネイロの指揮者コンクールで1位を獲得しています。マンドリン音楽の芸術性の向上に努力貢献したハインリッヒ・コニエンツニー(1910年～1983年)と共に作曲法とオーケストレーションを研究し、また彼の作品をいくつも任された経験から、ヴェングラーは敬意を表してこの作品「星座」をコニエンツニーに捧げています。(スコアのノートより)

エストレリータ (Estrellita)

M. ポンセ

スペイン語で「小さな星」という意味で、原曲は「私の苦しみをみつめて光る星、降りてきて私に彼の気持ちを教えて。彼なしでは生きられないの。あなたは私の愛の灯台……」というロマンチックな歌詞を持つ歌曲です。近代メキシコ音楽の父と称されるポンセ（1882年～1948年）が1913年に作詞作曲。様々な編曲・演奏でポピュラーナンバーとしても有名です。

幸福の星 (L'Etoile du Bonheur)

G. フレンド

我が国のマンドリン界で長く親しまれているマンドリンのオリジナル曲ですが、20世紀前半にフランスのパリで出版されていたL'ESTUDIANTINA誌で発表されたこと以外は、作者や曲の由来等の詳細はよくわかっていません。しかしながら「希望の星」に通じる前向きで幸せを招くような曲名とストーリー性を感じさせ劇的に展開する演奏会用の序曲形式で作られていることが、人気の要因となっています。詳細不明が故に各演奏団体がそれぞれより自由に想像力を膨らませて楽しく演奏している様子がYouTubeでもいくつも公開されています。3年を超えたコロナ禍がどうか終息し、明るい世の中が訪れますようにとの思いを込め演奏いたします。

(文責 山本)

《第64回定期演奏会のお知らせ》

2024年4月14日(日) 14:00開演 第一生命ホール(晴海・トリトンスクエア)

連絡先：石井啓之
E-MAIL：hi@ishii164.net
ホームページ：http://ostokyo.info/

出 演 者

指 揮 者： 山本 雅三 嶋 直樹 石井 啓之
 コンサートマスター： 田中 尊子 小松崎美奈子

第一マンドリン： 田中 尊子 内野 典子 高嶋 明美 田島 明子
 ☆小松崎美奈子 大口 千秋 高嶋 淳 本間 輝樹

第二マンドリン： ☆宮崎 俊行 岩崎 宏子 後藤 俊明 鈴木 園子 水落 恵子
 高嶋 友美 木村 栄子 小林 悦子 中村 順子 渡辺かおる

マンドラテノール： 金勝 溪子 伊藤 安子 後藤 成子 滝田ふさ子
 高嶋 典子 小谷 文子 関谷 裕子 ★鈴木 憲靖

ギ タ ー： 小林 透 平田 陽一 戸次 脩 ☆山本 雅三
 原島 美歩 船崎 薫 山崎 豊

リユートモデルノ： ☆嶋 直樹 ☆石井 啓之 (代表)

マンドロンチェロ： 澤田 理恵 安達 直之 小川眞寿美

マンドローネ： ★加藤 純 ★山口 敦

コントラバス： 佐藤 正 石黒不二夫 ★樺澤とも子

フル ー ト： ★松尾 圭子

クラリネット： ★久松 響子

ピ ア ノ： ★浦島 晶子

打 楽 器： ★飯野 晶子 ★松岡 雅史

(★=賛助奏者 ☆=幹事)

・この演奏会に関するご意見、ご感想をお聞かせください。右のQRコード(上)からお願いします。



ご意見、ご感想

・過去のOSTの演奏画像をごらんになれます(YouTube)。右のQRコード(下)からどうぞ(音が鳴りますので、演奏中のアクセスはご遠慮くださいませ)。



過去の演奏画像